

【参加者の声】

- ・日本では感じにくいEV化の波が実感できた。また、中国の技術、開発に対する姿勢・推進力、戦略、国全体としてのEVに対する関心の高さ等、学ぶことが多かった。
- ・内燃機車同様に安全性向上(超高張力材使用)、超急速充電化などの開発スピードと企業間連携関係、商品化のスピードがとても早い。市場の大きさから外資系企業も重要視したモノづくり、現地に特化した仕様へと大きくシフトしている。
- ・中国市場における新エネルギー車普及の加速や地場系メーカーの台頭とグローバル輸出の伸長、さらに800V超急速充電技術やEREVの急速な普及、知能運転技術まで、世界最大の自動車市場で起きている激変が包括的に網羅されて、大変有益だった。また、欧米・日系完成車メーカーが自前主義を捨てて現地テック企業と組む「In China, For China」へのシフトなど、市場構造と競合環境の変化を実感できる大変参考になる視察報告だった。
- ・中国大手から、新興メーカーの詳細な戦略を多角的な視点で視聴することができた。特に安全や、快適など、これまで日系メーカーが強みとしていたバリューにも力を入れていることに、今までと異なる脅威を感じる事ができた。
- ・中国4強ブランド、新興メーカー、伝統大手が人工知能を基にした安全、自動運転技術、人工知能化技術で相当な速度で開発継続、進められている状況が改めて理解できた。バッテリー技術ではBYD、CALBなどが高電圧急速充電対応を進めており、必要な冷却技術、冷却器用材料の今後の方向性を考える上で大変参考になった。
- ・各社の展示情報も豊富で、その前段階としてグローバル市場や中国市場の動向のインプットがあったため、資料や説明の繋がりがあって非常にわかりやすかった。開発スピードが早く競争が激しい中国市場で戦うためには、積極的に中国企業と協業や現地開発などを行う必要があると感じた。
- ・各社EV戦略の動向と、各社が中国参入を重要視する理由を理解することができた。メーカーによるスペックの優劣があるものの、車体そのものの差が少なく、購入を決めるための要素がどういった点に現れるのか、今後の動向も注視したい。
- ・中国メーカーは単なる電動化ではなく、知能化(自動運転)を見据えた開発をしていることがわかった。安全性をPRしているメーカーも多く、自動運転となり事故が防げるのであれば必要な安全性能も変わるなど、今後も車開発のコンセプトの変化には注目したい。
- ・北京モーターショーの規模の大きさ、日本ではあまり進んでいないEV化が中国では進んでいて中国にだいぶ遅れをとっているという危機感を感じた。以前、中国は輸入車が多かったが今では国産車が多く、輸出も多いことを知ることができた。
- ・中国独自の4輪市場や最新の技術動向、各メーカーの技術戦略やブランド戦略が詳しくレポートされていた。既存海外ブランドの影が薄く見えたのは衝撃的だった。
- ・中国市場での日系及び欧州メーカーの苦戦の理由がよくわかった。予想以上に競争が激化していて、参入障壁の低さがもたらした功罪のようにも感じられた。今後も他社との差別化をそれぞれの企業がどのように図っていくのか非常に関心を持てた。
- ・基本国内メーカー向けの仕事で、追っているのは国内各自動車メーカーの動向のため、身近にようやくBYDが走っているのを見かけても、あまり気にしてなかった。中国国内に複数の自動車メーカーが存在することは知っていたが、報告会で紹介しきれない程のメーカーが中国国内の市場を席卷している事実を知って、唯々驚いた。
- ・中国の開発スピードの凄さに恐れを感じた。国と一体になった競争力とそれぞれの会社が尖がった技術を追及している姿に、日本のメーカーは挽回できるのかと不安になった。
- ・中国のBEVはトップクラスで、その技術をHEVに転用して、エンジン技術も進化していることを理解した。我々、日系メーカーはその事実を受け止めて、新たなイノベーションが必要と感じた。